



ORIENTEERING JAPAN

JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

'93/10

1993年〔平成5年〕10月10日発行

(毎月1回10日発行)

第10巻第10号通巻第123号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可



# 蓋沼 森林公園



0 500m

	主要道路
	道
	道
	小道
	小径
	さく(通り抜け部分)
	建物
	岩・石・岩石地
	凹地・小凹地・穴
	ほこら・記念碑・石仏
	墓地・墓

	湧水点
	水路・小川
	沼・池
	湿地
	植生界
	岩ガケ(通行可能・不能)
	土ガケ(通行可能・不能)
	空地・耕作地(田・畑等)
	果樹園(梅林ほか)
	低い塔・高い塔

縮尺 1 : 10000  
等高線間隔 10m

調査期間 平成4年7月  
調査・作図 福島県オリエンテーリング協会  
設置・管理 会津高田町役場農林商工課

この地図はオリエンテーリングに使用するため  
会津高田町発行の1万分の1行政図を基礎とし  
て調査・作図したものである。



去る6月17日に実施された、奈良県・橿原市中学体育大会のOLの部(9L-0L)のスタートの様。場所はいずれも明日香村・高松塚古墳のある所。



福島県レクリエーション大会(OLの部)より元気に走るこどもたち。



左/トニー・コッター、右/ダリル・スミスのご二人。(右記参照)

●=O-FORUM=

“都市近郊のトレインの使用問題について”

東大OLK16期・有川 智己……………4-7

●=SQUADより=

SQUAD 広報担当・桐田 幸宏……………8-9

「APOC・WCの選手選考方法決定」

「WOC日本代表選手・アメリカへ出発」

「WOC日本代表選手社行チャリティOL大会開催」

●=投稿=

「“走”の世界へ…」

長谷川照恭……………10

●=オリエンティアのための本棚=

第3回: シェルバ斉藤「213万歩の旅」 小学館

文: 村越 真/カット: 早川喜代美……………11

●「にっぽんのみなさん、ありがとう！」 ベント・ミルヴォルド……………12

●「小幡文男さんを惜しんで」 佐藤 征男……………12

●「編集者への手紙」 from ダリル・スミス……………12

●=「O-JAPAN」クラブ購読(登録)一覧=(追録I)……………13

●=クラブ紹介= (追加I)……………14

●=連絡協だより= =情報あれこれ= =編集部より= ……………16

□

【今月の表紙】 去る9月26日(日)福島県会津高田市で行なわれた、福島県レクリエーション大会(スコアOL)の一コントロール=パーマナントコース用と共通=から見た県指定の天然記念物「蓋沼」。地元の小中学生に日本女子チャンピオンの木植早生さんや、オーストラリアのダリル・スミスさん(12ページ参照)そしてトニー・コッターさん(アイルランド(福島県在住)など外国人もまじり、こじんまりした楽しい大会であった。

【今月の地図】 同大会で使われた地図とスコアOLのコントロール位置。通行可能度無しでも、十分楽しめたし、ましてこども達や初心者には、森林公園として小道などが多く格好のトレインである。

## 都市近郊のテレインの使用問題について

東大OLK16期 有川 智 己

横浜市緑区のテレイン「三保市民の森」は、都市近郊の、気軽にオリエンテーリングができるテレインとして利用されていますが、私はそのテレインでのオリエンテーリングを差し控えていただきたく皆さんにお願いするものです。なぜ私のような若輩ものがそのようなことを言うのかといえ、それはこのテレインを取り巻く微妙な情勢を知っていたからであります。その情勢とは、なにも三保市民の森に特有の問題ではなく、都市近郊のテレインに共通して起こっている問題で、これからオリエンテーリングを続けていく人はみな考えなければならぬことだと思います。

その問題とは、第一に、地主との問題であり、第二に、その山の自然に与えるインパクトの問題です。オリエンテーリングは各所で「自然に親しめるスポーツ」ということを売りものにしていくから、オリエンティアの皆さんは普通の方よりも「自然と人間との関わり」ということには意識があるのではないか、少なくとも自然が好きという意識があるのではないかと思われませんが、むしろ「オリエンテーリングは自然にちっともやさしくない」という一面がある、ということ、をはっきり意識してもらいたいのです。このことが2つの問題を引き起こしているのです。

### 都市近郊テレイン総論

#### 林床が荒れる

オリエンテーリングの行なわれた後の山の状態を考えてみてください。たとえば軽いヤブなどは、切り開かれて「OLみち」ができています。森の中では土はふかふかですが、その土が至るところで剥されたり、荒らされたりしています。そこが斜面であろうものなら、それはひどいものです。枝は折られ、芽生えは潰され、草は潰されています。それだけなら回復できるかも知れなくても、表土自体剥され、根が掘り返されたりしています。急斜面などは、一面土が掘り返され、岩が落ちたりしています。朽ちかけた木は倒され、崩されてしまっているし、生木ですら折られ、倒されていたりします。

#### 地主のこと

オリエンテーリングの行なわれる野山

にもそこが私有地であればもちろん地主がいるわけです。地主にとっては、人の土地に無許可で大勢の人間が立ち入り、集まって、得体の知れないことをやって、土地を荒らしていく、ということだけでも十分いやなことでしょう。そもそも、その野山は彼らの財産であるわけです。林というものは、もともとかなりの人手をかけて「維持」されているものなのです。たとえば間伐だとか、切り株管理だとか、下草刈りだとか、落ち葉集めだとかです。オリエンテーリングの最中にそのような作業がされているのを見たことがある人も多いでしょう。それは、たとえば木を林業資源とするためであったり、キノコやその他の栽培産物を得るためであったり、堆肥を作る材料を得るためであったりします。考えてみれば当然ですが、農業や園芸で大量に使われる堆肥は、このような管理のいきどおいた林で人力により集められた落ち葉から作られるのです。

椎茸床や耕作地は、OLK（東大OLK）の人にも結構意識されているようですが、林自体もこのようなところと同様に、手のかかっている、産物の得られるものなのです。このような財産を荒らされて、平気な地主はそういない訳です。多くの地主は、生物調査やら散策やらで森に入られるのすら、嫌がります。オリエンテーリングなんか言わずもがなです。本来は、練習会でも地主や地元自治会にでも許可を得るべきなのでしょう。不法侵入で訴えられても、正義が彼らにあります。

#### 森の効果

森は、そのような地主にとって直接に利益をもたらす土地であるだけでなく、全ての人のいろいろな形で利益をもたらす場でもあります。たとえば、炭酸ガスを吸収して、酸素を放出するとともに、大気汚染物質を吸収します。雨水を溜め、治水や灌漑に役立ちます。水を浄化します。林野のこのような効果が、われわれが普通に想像しているのよりもはるかに大きいものであることは、その方面の本なりを調べてみれば分かるでしょう。森一つを残すか亡くすかで、その周辺の水や空気は大きく変化しますし、洪水の起こりやすさに大きな影響を与えるのは、ニュースなどでもご存知でしょ

う。このような効果は、街路樹や都市公園の木や草でとても賄えるものではありません。生物学をやれば分かると思います。森と街路樹では、単位面積当たりでも「量」と「質」も全然違います。森は、そこに多くの生き物や有機物が存在して、微妙で複雑な関係を持っています。そして微妙なバランスがとれていて、はじめて様々な機能を持っているのです。殊に、古来から人の手が入っていて、微妙に管理されている雑木林などは、放置されて行き着くところまでいった森より遥かに多くの環境を包括し、多くの種を擁します。高い生産量をもつ、質の高い森となります。

#### 生態系・生物種

その微妙なバランス自体やそのバランスを構成する様々な生物種自体、貴重な、保護・保全すべき物であることは、最近盛んに論議されているので、ここで言及するには及ばないでしょう。この手の問題は感情論や価値観の問題として扱われることが多かったのですが、もっと普遍的な問題として捉えないと意味がない。たとえば、「遺伝子資源」という概念で扱ったり、「未利用エネルギー」として扱われる部分があったり、学ばべき未解明のシステムとして扱ったりするわけです。

開発やらで森が無くなるというならまだしも、オリエンテーリングで森が荒れる、ということが、このようなことに影響を与えるのだろうか、と思われるかも知れない。しかし、これは結構大きいのです。草むしりなり地面を掘り返すなりしてつくられた裸地が、簡単に雑草で覆われたり、根ごと引っこ抜いた草がすぐ芽吹いたり、ということがイメージしてあるでしょう。ところがあれば、日当たりの良い庭のすみとか道端とか畑とかの話であって、森の中の話ではないのです。数ヶ月で生えそろう雑草は、決して薄暗い湿った林床内に、荒らされる前にあった植生ではない。たとえば「カタクリ」などは、根ごと掘り返されてしまったら、もう芽生えません。カタクリがその種から一個の花を咲かせるまでには、最低7～8年掛かります。それもごく少しづつです。オリエンテーリングで崩された数坪の斜面がカタクリの生息地だったとしたら、そのカタクリが元

の状態に戻るには、何十年もかかるという事です。その周囲に二三株のカタクリしか残っていないければ、もうそこには翌年から数十年もカタクリは咲かないかも知れない。また、「カンアオイ」という、とても目立たない怪しい花を咲かす植物があるのですが、これはとても分布をひろげにくい植物として有名なのです。1キロ1万年説というのがあるくらいです。ですから、少し離れたところにあるカンアオイどうしても遺伝子の交流ができなくなりますから、地域ごとに簡単に色々な種に分化してしまいます。多摩地方にしか咲かない「タモノカンアオイ」とか、地域地域に独自の特徴的な種類が、ごく限られた範囲にかたまったりします。タモノカンアオイは、「三保市民の森」にはありませんが、今年の東大大会を行なった「高月城址」の一角にはかなりありましたし、かなり潰されてきました。森のごく一角である種が壊滅しても、他の所があればよいではないか、と思われるかも知れない。しかし、一角一角に見られる植物の種類は、それぞれの場所で全然違うのです。ことにオリエンテーリングで特に踏みつぶされやすい「シダ」などは、ある一つの種が一つの山に一株二株、という単位で残っているものなのです。東京の回りや横浜市内など、随分開発されてしまったところにポツリと残っている森などでは、その市内なり丘陵地なりに残った最後の一株、というような種類のシダがさりげなくあつたりします。これを踏みつぶしてしまったら、「△△丘陵産××シダを絶滅に追いやった」ということになる。そのタイプの生物は二度と現れないわけです。そのような遺伝子をもった生物は二度と解明されることも利用されることもないわけです。

別に綺麗なカタクリを守ろうとか、めずらしい植物を守ろうとかいうことを喧伝するつもりではないのです。要素の一つがなくなってしまうと、微妙な環境はくずれるのです。カタクリが消えれば昆虫相も変わります。たとえば「カタクリハムシ」という虫はカタクリしか食べられないので、カタクリ無しには生きて行けません。「オオムラサキ」という蝶の幼虫は、エノキの葉以外は食べられません。ある一種の植物がなくなることで、ドミノ倒しにいろいろな生き物に影響がでるのです。生態系のバランスの中で一つの要素が完全に消えてしまったら簡単にフォローできたりはしない。その生態系はもろくなります。そして簡単な

ショックでその森の生態系自体が崩れたりすることになります。

植物の生える林床を剥いでしまうだけではない。鳥や獣をその繁殖地から追い出すことにもなります。ヤブはウサギやイタチの繁殖地になっています。あるテレインのあるヤブを、数年に一度荒らすことを何回か続けていけば、そのヤブを使っている動物は、その森から滅びてしまうことでしょう。キツネやイタチは、山には結構普通にいる動物ですが、彼らは人の気配にとっても敏感で、臆病だと言います。こういった動物がよく車にはねられるのは、人に奪って逃げ惑ううちに道路に飛び出すということが多いからだと思います。オリエンティアが何ヵ月かに一度彼らの森に入ろうものなら、彼らはどうなるでしょう？ こういった大柄の鳥や獣の場合には、生態系の中に占める位置も大きいので、数個体の死がその山における生態系に大きな打撃を与えかねません。

実際にはオリエンテーリングが地域生態系の微妙なバランスに大きな影響を与えかねないということはお解り戴けるのではないかと思います。しかし、このようなことは、埼玉の奥地や富士山麓というように、深い山と森が延々とつながっているところではあまり問題にならないのではないかと思います。数百人のオリエンティアが入って森の何箇所かをあらしたとしても、それをフォローするだけのものがあるからです。そのようなところで気にしていたら、神経がすりへてしまいます。ところが、たとえば「三保市民の森」というような、住宅地などに回りを囲まれた孤立した山林では、状況が違うわけです。先程述べたような、「多摩丘陵あるいは横浜市内から、ある一つの種を完全に消失させる」ということを、簡単に起こし得るわけです。定期的なオリエンテーリングによって、簡単に森の質を格段に落としてし得るのです。

### 自然保護運動

実際に、生態系に影響を与えるということ自体、憂えるべきことですが、私はむしろ、生態系を荒らすことで自然保護団体と対立を起こすということが怖い。都市の中に残された林野は、いま大抵付近の住民などによって組織された愛護団体や自然保護団体が守ろうとしています。実際その森のあるなしで彼らの住む所の環境も大きく変わるわけですし、特にそのような運動をする主婦の人達は、子どもたちの体験の場、ということをも盛

んに述べたりします。都市の中に残された、昔の丘陵地帯の自然環境というのは、特に「里山の自然」というように言ったりしますが、そのような所は激滅していますから、実際にその学術的価値や遺伝子資源としての価値も高い。彼らの運動の正当性も、数え上げたらきりがありません。驚くほど学術的なアプローチや現実的な方策をとっている団体や人も多いのです。

彼らにとって大事なことは、第一にその森自体をできるだけ守ることにほかならない。このようなことはオリエンティアにとっても利益に違いありません。実際に多くの林野が開発によって姿を消し、ますます条件の悪いところに追いやられているのはオリエンティアも同じなのだから。ところが、実際にそのような辛うじて守られている森などを荒らすことに対して、彼らの批判は加えられるはず。実際にオフロードカーや自転車などでは、そのような葛藤を経てオフロードの愛好会などの方が自主規制や環境評価を行なったりするようになったのです。オリエンテーリングがこれまで自然保護のグループから攻撃されないうたのは、単に彼らにオリエンテーリングが知られていなかったからに過ぎない。でも、そのようなことは時間の問題のほうです。

実際に、自然保護のグループなんていうものもオリエンテーリング同様狭い世界で、どこかの団体が「オリエンテーリングというものを里山でやられるのは問題がある」ということを認識し出せば、全国的にオリエンテーリングは排斥されてしまいます。その時になって、里山でのオリエンテーリングを自粛したもう遅い。狭い世界ですが、その行動や行政などとのパイプは、オリエンテーリングとの比ではないわけで、実際にわれわれが彼らに攻撃されれば、ひとたまりもないでしょう。

われわれは「自然を荒らそう」などと思っていないわけですし、むしろ自然を大事にしたいと思っているのでしようから、自然保護団体と対立する気など毛頭ないでしょう。ですから、向こうの一方的な攻撃になる。そんな状態ではどちらにも利益がないわけです。このような対立は避けなければならない。

実際にもう自然保全サイドの人間が、オリエンテーリングを意識し始めています。「三保市民の森」と同じ横浜市内にあるテレイン「こどもの国」では、地図作成の段階で自然保護サイドの人間

がタッチしていました。その地図をニューマップとして行なわれた大会では、その観点から立入り禁止地域の設定と事前と事後の影響調査が行なわれました。その結果次第ではこのトレインでの大会開催は控えてくれという約束もありました。結果的には、想像を上回る被害があったと怒っていました。カタクリの生息地は荒らされるし、「ギンラン」という里山に特徴的な貴重なランは、今年も生えなくなってしまったということです。ということで、このトレインでのオリエンテーリングは許可しないということになったのですが、実際にはこのマップが市内に普通に巡回し、勝手に練習会に使われているらしいということに、向こうサイドは怒り出しています。どうやらこどもの国協会内で、このトレインの使用は不許可ということが徹底していないせいもあるようなのですが。

#### 地主は神経過敏になっている

土地の値段が上がり開発が莫大な利益を生むことになり、開発が進むにつれて里山が実際に貴重なものになってくる。そのため各地で里山の保護が訴えられるに従い、地主は開発と保護の間で揺れることになる。都市近郊では多くの地主は、里山を残せるのなら残したいが、実際にそのような余裕はない、大きな利益をもたらすものを眠らせるほど余裕はない、と迷っているそうです。相続税といった問題がとて大きかったりする。また、規制地域になれば、自分の財産を使って何かをしようとする度に多くの書類が必要になったり、自分の思うようなことができなったり、不都合が生じたりします。そのような状況で自分の財産をどうすれば良いか結構神経過敏になっているわけです。ですから保護のための調査が行なわれることを疎んじたり、人に森を荒らされることにとても憤ったりするわけです。自分の財産の危機なわけですから、当たり前といえば当たり前でしょう。こういう状況下の森に入れば、地主の気持ちと自然保護グループの人の気持ちの両方を逆撫ですることになり、その地域の山野の今後のあり方に、実際に大きな影響を与えざるを得ないのである。

#### 自然をありのままの状態 使うスポーツとしての義務

今年の東大OLKの新歓（新入生歓迎行事）で配られた冊子にあった一節を引用します。

「自然を使って行なうスポーツは他にもありますが、このように自然をありのままの状態を使うスポーツは他にありません。従って山野がなければOLKというスポーツは存在しないことになります。そのためすべてのオリエンティアは自然を大切にします。大会会場や山野の中では誰もが禁煙ですし、決してゴミは出しません。地主が怒って、以後その場所でOLKができなくなってしまうからです。」

禁煙は、山の中では常識ですが（山火事の危険性だってある）、ゴミについてのオリエンティアの皆さんの徹底ぶりは本当に感心します。地主を怒らせたり、地元の人々の迷惑になつたりしてはいけません、とかいう意識や、自然を大切にすること、という意識はあるようですが、私がこの場で述べているような自然への影響に対する認識は全くなかったのでしょうか。ところがこういう事実があるわけですし、自然をありのままに使わないとやっていけないスポーツだからこそ、このようにことをしっかり受け止めて、対処する必要があるのではないのでしょうか。それができなければ、自然をありのままに使う資格など、微塵もないと思います。

### 「三保市民の森」をとりまく微妙な情勢 トレイン「三保市民の森」概略

トレイン「三保市民の森」は、横浜市が「緑の7大拠点」のひとつとしている約200haの山林で、学校敷地と自動車道路によって、北東部分と南西部に分断されています。南西部は緑区三保町に属し、市民の森『三保市民の森』となっており、北東部分は緑区新治町に属し、風致地区に指定されています。三保町側は市民の森として整備されている訳ですから、尾根や谷に道が張り巡らされていて、林床は結構裸の状態になってしまっていますが、新治町側は、昭和30年代まで普通に見られたような里山が、比較的にそのままの状態が残されています。

この地域には、植物は762種が成育し、樹齢60〜70年の成熟したスギ・ヒノキ植林が多いため、その安定した林床はシダ類の宝庫となっています。固休数はとても限られるが、種数が多いのが特徴だと言えます。多摩丘陵の植物を実地で調査されている方の話によれば、「オオバハチジョウシダ」と「オオキヨズミシダ」という2種のシダは、多摩丘陵全体でも新治にしか、しかも1株ずつしかないということです。「ヤブムグラ」「ヤ

ブザクラ」の2種の植物は、新治には多く見られますが、これは関東地方南部の丘陵の固有種です。

チョウは59種、トンボは27種が確認されています。その中にはオオムラサキなど今後の生存の危うい種も多く含まれています。野鳥は97種が確認されています。雄は非常に尾が長い「サンコウチョウ」は、本来武蔵野の雑木林に多く見られたそうですが、今では珍しい鳥となっています。新治ではこの鳥が繁殖しているとみられます。「カワセミ」はもちろん来ますし、「オオカキ」も越冬しています。哺乳類なら「イタチ」とか「タヌキ」がいるし……

「三保市民の森」が自然保護・保全という観点からすればまさに使われるべきではないトレインなのはお解りでしょうか？

#### 新治の保護運動

都市の真ん中にぽっかりと浮かんだ、ここまで高度な生態系の維持されているところですから、保護すべき、という機運も物凄く高い。全国的に見ても有名な位です。というのは、普通山林の保護運動なんていうのは、すでにデベロッパーが動き出し、開発を前提とした環境アセスが行なわれ、青写真ができてどうにもならなくなってから動き出すことが多いわけです。ところが、この新治を将来にわたって保全しようという動きは、具体的な開発計画ができる前に起こされたもので、見事功を奏した例として有名なのです。そのような市民サイドからの運動で、緑の7大拠点だとか風致地区だとか、市が将来的に買い取って保全するとかいうことになったのです。そのような運動の過程で、前に上げた、植物762種だとかいうようなデータが集められたりしたわけですし、91年の9月には「緑区自然を守る会」という市民の会が、そのような成果を踏まえて文一総合出版から、「カタクリの咲く谷戸に 横浜・新治の自然史」という写真集を出版したりもしています。保全運動サイドの人達も、あの森に多大な投資をしているということです。そのようなところで森の中に踏み込むオリエンテーリングが行なわれ、それが個々（と言っても大いにあり得ることなのですが）向こうサイドの人と鉢合わせをしたら、その場でもめ事が起こることは必至ですし、それが全国的な問題に波及する恐れは十分あるのです。

## 新治の地主の感情

新治は市の緑政局では将来にわたって保全される方向で検討されているわけですが、それが具体的にどのような形になるかは全く不透明なものです。おそらくある部分には開発が入るでしょうし、ある部分は得体の知れない保養施設ができたりするかも知れない。部分的には保存されるのだろうが、それがどういう形態でかは全く分からない。地主にとっては、自分の地所は買い取って保証してもらえるのか、開発しても構わないようになるのか、安値で買い叩かれるのか、いろいろな制限をされてしまうのか、全く分からないわけです。前ほど述べた開発か保護かの葛藤の矢面に立たされているわけです。ですから、新治を所有しているどの地主も、森を荒らされることにとっても敏感になっていて、ことに新治の山林の半分近くを所有している人は、森に普通に立ち入られることにも随分慣っているそうです。オリエンテーリングをやっている途中でこの人と鉢合わせすれば、われわれは警察さたも行政当局とのひと悶着も覚悟しなければならぬでしょう。

## 新治では

新治においては実際にオリエンテーリングが相当の被害を山の自然に与えますし、オリエンテーリングをやっているところが地主か自然保護サイドの人間に見つかれば、その場でもその後にもわたっても間違いなく大いに揉めるのです。そして練習会なり大会なりを開けば間違いなく林内で彼らと遭遇するでしょうし、地元の自然保護サイドはオリエンテーリングというものを知り始めていますから、遭遇しなくてもオリエンテーリングにとって悪い影響がありうるわけです。

また、地主の許可を得られたとしても、地主は実際にこんなに荒らされるとは思わずに、一回限りのことだろうと思って、立派なマップがつくられて事ある毎に使われるなどとは思いませんで、許可をしている場合が多いようです。このようなことは、後々に揉め事を起こす種にもなりかねません。以後、大会などで地主の許可を得ようという時には、こういう事も説明するべきだと思います。

## 三保では

新治は駄目として、市民の森の方は構わないのではないか、と思われるかも知れませんが、市民の森というのはそもそも私有地を暫定的に市が借り上げて整備

しているに過ぎないのです。オリエンテーリングは論外として、散策路をはずれる散歩の人達によってでも、これ以上森が荒れることになれば、地主たちは市と「市民の森」の契約を打ち切って、開発なりなんなりに踏み切ることだって、十分あり得たりします。その森は市民の憩いの場のひとつであり、休日などに散策などができるように、散策路や休憩所などを設けています。横浜市の市民の森には、「市民の森愛護会」というのがあって、これが最近その散策路などが荒れているのを憂えて、パトロールなどを行なったりもしているのです。当然のことですが、こういった人達は林床に入ることにもクレームを付けてきますから、オリエンテーリングなんかしていたら言わずもがな、しかも組織的ということになれば大きな問題に発展しかねない。実際、この会の代表者は地元の市議会議員で、そちらの方に問題が波及すればどういうことになるか想像が付きません。

「三保市民の森」で実際に大会や練習会を開くと、実害があるのはもちろん、高い確率でトラブルになり得るということ、ご理解戴けたのではないかと思います。「三保市民の森」や「こどもの国」といったトレインの使用は、オリエンテーリングにとって良い影響をもたらさない、ということ、ご理解戴けますでしょうか。

大体、ヨーロッパのゆるやかで広大な針葉樹林の森でオリエンテーリングをするのであれば、このような問題は起きないわけですが、日本のような、湿潤で、地誌的要因から生物相が豊かで、尾根や沢といったものが多い急峻な地形の森では、今あるようなオリエンテーリングには向かないのです。日本の森は、数平方メートルという単位で環境が違い、それがモザイク状に連なって初めて機能しているわけで、その一角でも失われればバランスが崩れるのに対し、向こうの森はどとも一様で、一角が損なわれても、それと同じ状態の、同じ機能のできる環境が、その周囲に延々とつながっているわけです。ヨーロッパでは行なわれているからといって、日本でそのままヨーロッパで行なわれている通りにやるわけにはいかないのです。日本でゴルフをやるには、あれだけの影響を与えるゴルフ場「開発」が必要であるのと全く同じことです。

このような日本で、自然をありのまま

に使う、という特殊なスポーツを行なっている以上、「われわれは相当無理なことをしている」という自覚を持ち、三保に限らずどのトレインにおいてもこういった問題を考慮し解決できる能力を身につける義務があると思うのです。一朝一夕にできることではありませんが、こういうことをしっかり将来的に考えていかないと、エリートランナーの育成なんてことと同じくらい尽力しないと、オリエンテーリングに将来などないと思うのです。競技スポーツとして確立する前に、J O A等組織的な問題による内部分解など待たなくても、外部から崩されてしまうことでしょう。

まず第一に、オリエンテーリング界にこのような問題意識が定着することが大事だと思います。このような問題に関して大いに議論がなされなければならない、このような問題に関する知識が普及されなければならないと思います。オリエンテーリング界の様々な方面からのクレームやご意見をお待ちしています。

1993年9月8日

〒225 横浜市緑区美しが丘西3-24-13  
有川智己

## [編集部より]

まず、有川さんに2~3お断りを申し上げます。

タイトルを、「「三保市民の森」使用停止のお願い」から「都市近郊のトレインの使用問題について」に変えさせていただきました。また、文中クラブ名・地図名が実名で書かれているところは、表現を変えさせていただきました。この原稿に添えていただいたお手紙の中にもありましたが、この問題は「横浜市のみの問題ではなく全国の都市近郊のトレインが抱えるものであり、その一例として「三保市民の森」そしてそれに関わるクラブ名をあげたに過ぎないと思われまふので、そのようにさせていただきました。横浜の「市民の森」に関する説明も私自身大きく関わっていて、多少の知識はありますので、少し訂正させていただきました。そのタイトルの「トレイン」ですが、今まで私自身も「テライン」という発音で度々書いておりましたが、私愛用の研究者の英和辞典上では、発音記号が'tórein, terein'となつておりますので、今後は「トレイン」として書かせていただきます。なお、このご投稿に対しぜひご意見をお寄せください。

お待ちしております。 田 口

## SQUADより

SQUAD (WOC SQUAD JAPAN) はナショナルチームをサポートしています

### APOC・WCの選手選考方法決定

APOCおよびワールドカップの日本代表選手選考について SQUAD  
WOC SQUAD JAPAN 強化部長 山岸 倫也

#### ★APOC (1月・NZL)

個人戦H21E及びD21Eへのエントリーは無制限(各自で申し込む)。「日本代表」の人数が制限された場合は12月末時点のエリートポイント(以下EP)を参考に現地で決定する。

団体戦(リレー)の「日本代表チーム」で走ることを希望する者は氏名・連絡先・所属クラブ・生年月日・実績を葉書で山岸まで連絡すること。〆切は10月末日。

#### ★ワールドカップ

94年はクラシック・ショート・リレーの3つをセットにしたシリーズが3回開催される。 ☆定員……クラシック男女各3人、ショート・リレー男女各6人

#1	4月3日～8日	NZL・AUSシリーズ	12月末時点
#2	8月10日～14日	NOR・DENシリーズ	3月末時点
#3	9月25日～10月1日	GER・TCHシリーズ	3月末時点

上記時点のEPで、原則として男子20位、女子10位以内の選手。(但し、状況により男子30位、女子20位程度の選手を考慮することもある。)

出場希望者が多い場合はEP上位より決定する。また「A級強化選手」(註1)は希望により優先的に出場させる。A級強化選手は世界選手権(WOC)終了後、ナショナルチーム村越コーチ・山岸コーチにより決定されるものとする。

出場希望者は氏名・希望レース・連絡先・所属クラブ・生年月日・実績を葉書で山岸まで連絡すること。〆切は#1は12月末日、#2・#3は4月末日。日程等の情報についての問い合わせも山岸まで。開催地等が明らかになるのは11月頃の予定。

【〒174 東京都板橋区小豆沢2-23-10-106 山岸 倫也】

### WOC日本代表選手・アメリカへ出発

この10月、アメリカはニューヨーク近郊のウエストポイント(ハドソン川沿い)にて開催される、世界選手権大会の日本代表選手は、10月2日までにその全選手が、そしてオフィシャルとなる山岸倫也氏、藤井範久氏、山本英勝氏、金田収子嬢も日本を後にした。

今月中旬にかけ、下記スケジュールにて遠征日程を終える予定。本誌が購読者各位に届く頃には、全選手が帰国しているだろう。

大会結果(速報)については、次号でお知らせしたい。

#### 【日程】

10/3～	トレーニングキャンプ
10/8	開会式
10/9	個人ショート予選
10/10	個人ショート決勝
10/12	個人ロング
10/14	リレー





# WOC日本代表選手壮行チャリティOL大会開催

## 93.9.11 「八ヶ岳高原 泉郷」

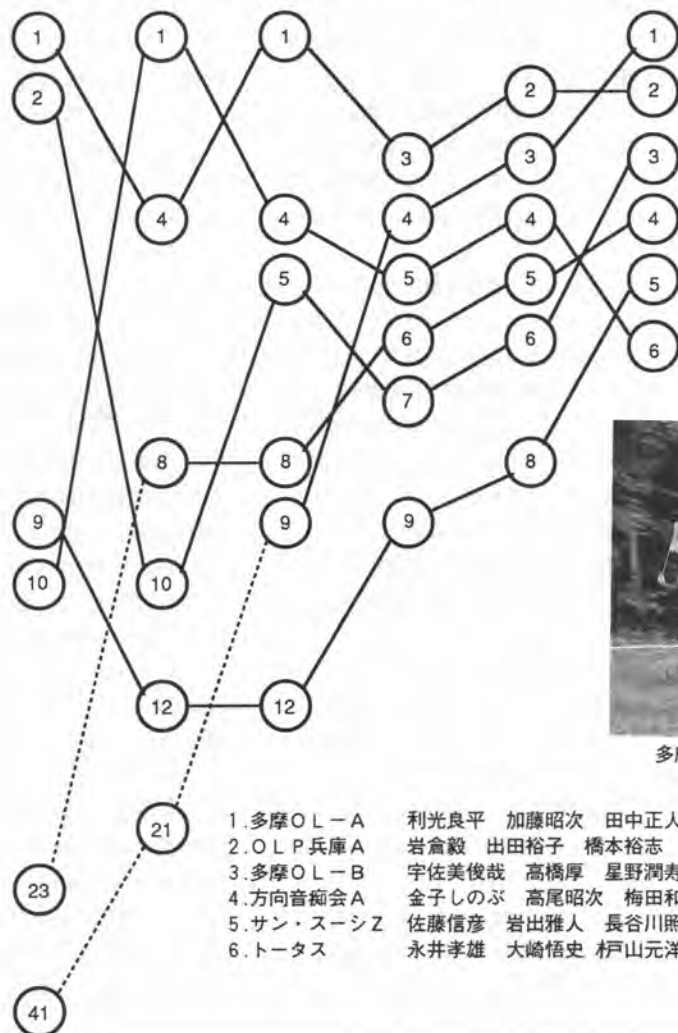
WOC日本代表選手の派遣費用の一助として、チャリティー大会が今回も行なわれた。

主催は、SQUADとR.M.Oサービス。競技形式は、日本初の6人制リレーでこれについてはプログラムのご挨拶から、R.M.Oサービス代表・山川克則氏の言葉を借りると「・・・今回は、長年（大きな）腹の中で暖めてきた多

人数リレーを行なうことにしました。スウェーデンのティオミラ（10人）やフィンランドのユッコラン（7人）の縮小日本版（本当は距離はもっと長く、ナイト-Oのレッグもある）という訳で、クラブとして戦うには3人や4人のリレーよりも断然面白いものになるのではないかと思画しました。・・・」とある。

翌日のトータス大会とタイアップイベントにしたこともあってか、エントリー数は82チームを数え、盛況のうちに終了した。

優勝をしたのは、多摩OL-Aチーム。序盤こそ出遅れたものの、底力を発揮して見事な逆転優勝。3位のBチームと共に多摩OLの実力を見せつけてくれた。主な結果は図のとおり。



多摩OL-A	3:36:44
OLP兵庫A	3:37:45
多摩OL-B	3:52:46
方向音痴会A	3:53:16
サン・スーシZ	3:57:56
トータス	3:59:03



多摩OL-Aチームのウイニングラン

- |            |                                   |
|------------|-----------------------------------|
| 1. 多摩OL-A  | 利光良平 加藤昭次 田中正人 鈴木規弘 菅原琢 ヨルク・フェッテル |
| 2. OLP兵庫A  | 岩倉毅 出田裕子 橋本裕志 尾上俊雄 井上健太郎 藤井範久     |
| 3. 多摩OL-B  | 宇佐美俊哉 高橋厚 星野潤寿 宇野明子 藤平正敏 小林毅      |
| 4. 方向音痴会A  | 金子しのぶ 高尾昭次 梅田和良 金田浩 田代雅之 上条圭      |
| 5. サン・スーシZ | 佐藤信彦 岩出雅人 長谷川照泰 渡辺弥生 宇野裕人 尾上秀雄    |
| 6. トータス    | 永井孝雄 大崎悟史 戸山元洋 遠山浩一 太田晃弘 榎本和弘     |

次号予告 JWOC (ジュニア世界選手権) 報告  
WOC (世界選手権) 報告 (速報)  
NT人物紹介 (樋口一志・白井由美)

エリートポイント中間報告  
富士登山駅伝  
などです (予定だけど・・・)

SQUAD広報担当 桐田幸宏

# “走”の世界へ…

10月は走り込みの第一歩。

OLCサン・スーシ 長谷川照恭

秋です！

OLの、そしてランニングの季節です。

『月間走り込み大会』（7月号に要項綴込み）に参加のO L e r（ついに200人突破？）のみなさん、着実に距離を稼いでいますか？ 同じ空の下、こんなに多くのO L e rが同じTシャツを着て一緒に走ってるんですね。これって結構すごいことかもしれません。



さて、この雑誌が届くのは10月の中旬ごろだと思います。このころというのは、そろそろ走り込みの疲労がたまってくる時期です。ぐったりして無気力状態の人はいませんか？ 特に初参加の人。

走り慣れていないと、この時期は結果として中だるみ状態になりがちです。でも、身体がやっと思いつけられてくる終盤には、不思議と体調が持ち直してくるものなんです。生活のリズムが走り合ってくるんでしょう。だからといって、焦って距離を取り戻そうなんて無理はしないように。月末から11月にかけては大きな大会が目白押しですから。急激な走り込みはかえって故障のもとですよ。

～走る前と後には十分なストレッチングを。足の筋肉を重点的に。はずみで伸ばさず、ジワジワ伸ばすのがコツ。～



また、走りそのものに新鮮味を感じなくなってくる時期でもあります。そんなとき、場所や時間帯を変えてみましょう。例えば、①公園や河川敷などはランナーの格好のトレーニング場。だれか適当な人の後にしっかりくっついて引っ張ってもらおうとか②地図を見ながらいつもと違う道を探検がてらウロウロ③1回だけのつもりで思い切って早起きをする。

（朝早く走っている人が以外といるものです）…等々ちょっとした工夫でいくらでも楽しめるものです。

自分の住んでいる町の違った一面も見えて、いい気分転換になりますよ。



さて私のクラブでも、以前からこの大会に有志で参加してきましたが、この間、慣れない走り込みで故障した人が何人か出ていました。そこで最近、標語を作って目的意識をはっきりさせたり、走った距離や工夫していること、ランニング中の出来事などをレポートして配ったりと、全員が楽しく1カ月間を過ごせるよう心掛けています。そして走り込みに目覚めた人の中には、これをバネにしてトレーニングを積み重ね、エリート権を獲得したという例もあります。

この大会の最大の特徴は「競走」ではなく「共走」です。お互いをサポートし合いながら、O L e rとして距離にこだわらず走り方にこだわっていきましょう。



今、せっせと身体を鍛えているみなさん。走力は付いてきましたか？ この1カ月間せっせと走り込んできたのですから、その効果をより確実に有意義なものにするために、もう少し走り続けてみませんか？ そしてランニング大会に出て足試しをしてみませんか？ きっと走り込みの成果が得られるはずですから。

では残りの数日間を、事故なく、ムリなく、メゲないで！（くれぐれも怪我には注意）

## ＊大会ガイド＊

このコーナーでは、これから申し込めるランニング大会の中からその都度ユニークなものを紹介していきます。

なお、申し込みその他詳細については大会要項が間に合えばO L Cカレンダーに掲載してもらうつもりですが、『ランナーズ』をはじめ数冊の市民ランナー向けの月刊誌が出ていますので、興味のある方は目を通しておくことをお勧めします。

まず今回は次の2レースをピックアップしてみました。（関東以外の方ごめんなさい）

【大会名】①開催予定日②レース概要③抽選会などプラスαイベントの有無④ワンポイントアドバイス⑤記録証⑥その他

## 【フロストバイトロードレース】

①1月9日（日）②東京の在日米軍横田基地内で行われる日米親善レース。ハーフと5kmの部がある。コースはおもに外周道路。例年、O L e rの多い大会③初めて出場した時のこと。外周道路をちょうど滑走路の先端にさしかかろうとしていたところ、滑走路の向こうの方から何か黒い物体が轟音とともに近づいて来る…と、ブッオオオーン！…特典：飛行機とランナーのニアミスが体験できる。模擬店あり。千円のステーキライスはポツクリかもしれないが、ビールが安くてダースで買っていく人も。参加賞はTシャツ④走りながら基地内を見学しよう⑤個人記録のみハガキで送られてくる。

## 【大山登山マラソン】

①3月13日（日）②小田急線伊勢原駅前をスタートし、大山中腹の阿夫利神社下社までの片道9km、Up 650mという登りっぱなしのコース。嬉しいことにゴール手前には1610段の石段が待っている③当たる確率高い抽選会、お汁粉・甘酒飲み放題、参加賞はTシャツにマラニックバッグと魅力いっぱい。（これってアメとムチ？）ゴール後は会場まで無料でケーブルとバスが利用できるが、走り足りないO L e rのために、我がクラブの誇るスーパーテライン「浅間山林道」内をクロカン気分ですべて帰ってこれるという特典まで付いている。どこまでもおいしい大会である④交通の便もよいので超人気大会。定員制のため素早く申し込み⑤個人記録のみハガキで。記録集もある（会場申し込み）⑥参加賞のバッグに着替えを入れて預けると、主催者がゴールまで運んでくれる。

さて次回は、前回紹介した「ランニングの世界で活躍している方々」の中からお一人に登場していただき、ランニング観や体験談などを語ってもらう予定です。お楽しみに。

# オリエンティアのための本棚

第3回：シェルバ齊藤「213万歩の旅」 小学館

文：村越 真/カット：早川喜代美

国道一号を走っていると様々な人に出会う。旧東海道の歴史探訪をしているとおぼしき一群の人々がいたり、どこまでいくんだろうと思わせるようなザックを背負った若い徒歩旅行者もいる。夏休みともなると、こうした人々が数多く出没する。新聞の静岡版には、江戸時代さながらの手甲にきやはん姿で東京から静岡まで帰ってきた地元民のニュースが紹介されていた。国道1号由比バイパスを「リヤカー旅行」とのぼりをたててリヤカーを曳く2人組がいたのには驚いた。いろんなことを考える人があるものである。そこいらの道でこんなことをしてもただのアホだろうが、それが国道1号、つまりは旧東海道であるというだけで、妙に納得してしまうから不思議だ。

この本はビーバルに連載された東海自然歩道の踏破のレポートである。1974年に完成したこの道は、東海とはいいつつ、メガロポリスから遠く離れた自然の中を貫いている。昨年の秋に、私たちは野外実習の一環として身延線の井出という駅からこの東海自然歩道を歩いて静岡を目指した。40キロ1泊2日の行程である。自然歩道の全長1343キロに比較したらこどもの遊びみたいなものである。道の脇のまだ緑の残る田畑の脇に生える彼岸花の赤が印象的だった。

走るなら30キロや40キロの行程は何でもないので歩くのはどうも自分の生理的なペースには合わない。退屈な時間に対する苛立ちも、その退屈さの中に飲み込まれてしまう。はっとするような出会いにも、エキサイティングな事件にも出会うことなく時間は過ぎていく。鶺鴒見物で子連れの人妻と妖しい雰囲気になったり、BE-PAL誌上の記事で通過を予想して立て看板を立ててきた人の家に世話になったりと様々なエピソードが描かれているが、きっと踏破のうちの大部分は、退屈な時間が流れているのだろう。比叡山には千日回峰行という千日間毎日50キロから80キロ歩く修行があるが、その存在理由が分かるような気がする。思考し、自分の考えを深めるには歩くというペースがっているのかもしれない。

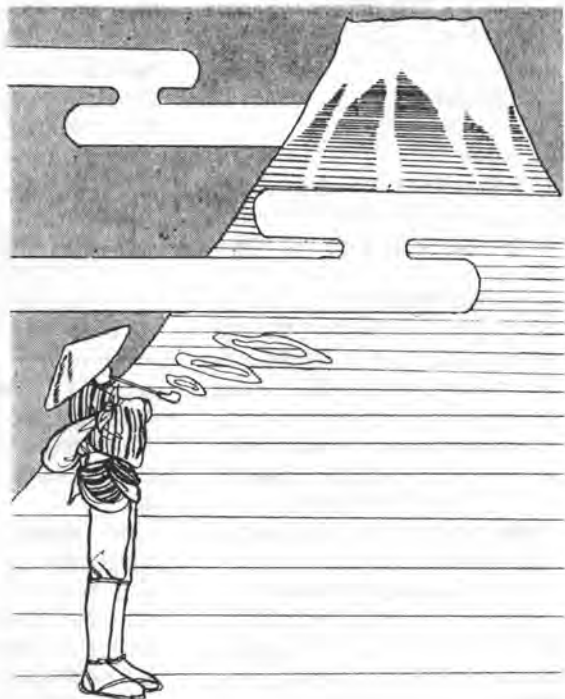
2日目の後半には静岡市の北方にそびえる竜爪山という難所がまっている。アップ1000mは学生には辛いようだ。山頂からは静岡と清水が一望できる。自分の脚で自分の住む街を目指し、それが一望できる場

所までくると一瞬の感慨が訪れる。そして疲れた足をふらつかせながら里まで下りる。何回も転びながら下りてくると、日はとうに暮れていた。

私たちが歩いている時には、自然歩道を歩いている人は見あたらなかった。しかし、全道踏破の話を読んだり新聞記事で読んだりすると、あの距離の何倍もを、何倍もの時間をかけて歩いている人がいることに改めて気付く。先日も朝日新聞の天声人語で老夫婦の踏破の記録が紹介されていた。こちらの方は16年かかったとのことだった。

高尾から箕面まで途中寄り道をしつつ結ぶ全長1300kmに及ぶ道を踏破してみようとする人が跡を立たないのも、この道が東京と大阪を結ぶ歴史の名残をほのかにとどめているからなのだろう。

訂正：第1回の伊能忠敬は、佐倉ではなく佐原の商人でした。訂正します。

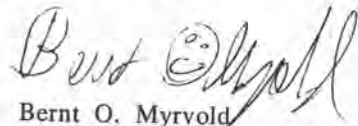


## にっぽんの みなさん

### ありがとう!

日本での1年半が早や過ぎ、ノルウェーに帰る時がきました。この誌面をお借りして、私の日本滞在中、このすばらしいスポーツ・オリエンテーリングをする楽しみのために、私を助けていただいた多くの方々に感謝の意を述べたいと思います。お蔭様で私は正しいバスに乗ることができ、正規の運賃や参加料を払うことができ、誘導テープも間違えず、ということは一スタート前から変な方向へ行くことなく、しっかりとオリエンテーリングをさせてくれた人々全てにお礼を申し上げなければなりません。大会の主催者の方々にも、不完全な、また間違いだらけの参加申込書を受けつけていただき、お詫び申し上げ、そしてまた正規のクラスでスタートできるようにご手配いただき、会場ではご面倒をお掛けし、深く感謝申し上げます。

日本の全てのオリエンテーリング仲間の方々に、ありがとう、そしてサヨナラ。



Bernt O. Myrvald  
ベルント・O・ミルヴォルド

#### 編集者への手紙

Dear Hajime,

ご機嫌いかがですか? あなたのご健勝、そして何よりも日本のオリエンテーリングが順調にやっていることと拝察いたします。

さて、私は3週間後に日本にお伺いすることとなり、その時ぜひOL競技に参加したいと思っています。9月26日、10月2・3日あたりが都合が良く、その辺りで大会等ありましたらお知らせください。東京から行けるところが良く、他のオリエンティアと一緒に旅行でも構いません。というのは、日本語を使うことに大変興味があるからです。実は日本には日本語の研修に行くのです。

昨年からは日本語の科目を教えているのですが、信じられますか? 11年前の日本におけるPOC (APOCの前名)の時に、あなた方のご努力が私に大きな影響を与え、日本へ関心を持つようにな

## 小幡文男さんを惜しんで

O-JAPANの9月号で、栃木県野州OL愛好会の小幡文男さんの急逝を知り、驚くとともに、OLに熱心な地方の努力家を失って大変残念に思っております。

小幡さんは私の隣の県でもあり、また年齢も2歳違いということで、大会のクラスも同じになることが多く、10数年前から何かと話し合っていました。特に1986年に香港で開催されました第4回アジア太平洋OL選手権大会の時には、香港での5日間という短い間でしたが、ホテルが同じ部屋になりました。飲んではウィスキーが強かったこと。香港の街の中を小幡さんがお土産品にするのだという中国製の毛筆を求めて、風邪で熱のある体で気分がすぐれない時でしたが、あちこちと探して歩き、カタコトの英語と漢字の筆談で、とうとう毛筆を売っている店を探し出したことなどが思い出されます。

最近お逢いしたのは、8月に秋田県で開催されましたO-CUP2日間大会の第2日目、8月7日(日曜日)の午前10時30分ごろ、スタート待機エリアにおいて、お逢いしたのが最後となりました。思えばいつもの小幡さんではなく、ちょっと元気がなかったように思われました。疲れているのかなあ、と思いました。スタート待機エリアの片隅でひとり地面に腰を下ろしスタート時間を待っているところでした。私は小幡さんの7分後で、H50Aクラスではラストのスタートだったので、ストレッチをやりながら言葉を交わしました。栃木県の矢板市から6時間あまり一人で車を運転してきたこと、秋田では宿には宿泊しないで、いつものように今回も車の中に泊まること、帰り道は道路が混雑して、来るときよりは時間がかかることなどを話してい

ったのです。あの時私は日本の文化への愛着を覚え、そして日本語を習おうと、また1年間日本に滞在することを決心したのです。ほんとうにありがとうございました!

多分、何人かのオリエンティアの方々とは旧交をあたためることができるでしょう。何人かの人々にわが家にホームステイしていただいたことがあるし、また私はできるだけお話をして日本語の練習をする必要があるのです。

そう、昨年のヴェテランズ・ワールド

水戸OLC会長 佐藤 征男  
ことなどが思い出されます。

小幡さんとは、隣県ということで、特にOLの組織について多くの意見を交換しました。OLの県組織、国組織の指導的立場にある人達がOLに対する経験が極めて少なく、組織を運営する熱意も乏しく、また、地域クラブにおいても熱心な人は少なく、県全体を対象としたクラブにならざるを得ない状況など、お互いに議論をいたしました。いつも議論から真っ先に逃げ出してしまうのが私の方でした。小幡さんは、OL組織の強化策について熱心に議論し何かを見いだそうとしておりました。県や国のOL組織は、その運営に進歩向上のあとが見られず、このままでは日本のOL界の将来の姿も非常に厳しいものがあり、OLを趣味として、自分の持てる時間の全てをOLにかけている者の一人として、心を強くいためている様子でした。

一方では、12月12日に開催予定であった第10回野州OL大会の準備やら、近づく全日本大会に向けて、その中心になるであろう小幡さんの精神的な負担は非常に大きなものがあったと思えます。お互いに地方におけるクラブ運営の中核たる者として、その胸中は察するに余りあります。

オリエンティア一人ひとりが、OL組織の運営に、OLの進歩発展のために、少しずつでも努力していくことが、地方におけるOL活動に熱心な努力家であった小幡さんの気持ちであり、オリエンティアがこれらに報いることが、小幡さんが安らかに眠られることではないでしょうか。

OLに熱心に取り組まれていた小幡さん。何かとありがとうございました。謹んでお悔やみ申し上げます。

合 掌

カップでは、あなた方のメンバーにお楽しみいただけたと思っています。あなたがお見えになれなかったのは大変残念でしたけれど....

それでは、近々お目にかかることを楽しみに。

Darryl Smith  
(ダリル・スミス)

オーストラリア、タスマニア州  
\*スミス氏は予定通り来日し、9月26日に福島県、10月2・3日に長野県の大会に参加しました。 [編集部]

## O-JAPAN クラブ購読 (登録) 一覧

(追録掲載)

平成5年6月現在

読者番号	県番号	正式クラブ名称 (略称クラブ名, ｱﾝﾌﾟﾙ ﾈｯﾄ名)	肩書	代表者名
県名		事務局 (住所, 氏名, 電話)		
		創立年 (和暦) 月	会員数 (合計, 男, 女)	機関紙 (有無, 名称, 回数)
2245	29	関西大学オリエンテーリング愛好会 (関大OL愛好会, KRA)	代表	小宮山 実
奈良県		〒630-01 生駒市鹿ノ台西一丁目4-15		☎07437-8-2127
		不明	会員数 (29名, 男26名, 女3名)	機関紙 (有, Sensible, 年4回)
1087	32	島根オリエンテーリングクラブ (島根OC, SiOC)	理事長	財間 定義
島根県		〒694 島根県大田市大田町大正西3	財間 定義	☎08548-2-1405
		1991年 (平成3年) 4月	会員数 (20名, 男14名, 女6名)	機関紙 (有, シネマ・リソフイア, 年12回)
1312	33	三菱自工水島オリエンテーリングクラブ (三菱自工水島, MMCO)	部長	浜上 進
岡山県		〒712 岡山県倉敷市水島海岸通1丁目1番地 ｽﾀｲ 技術ｸﾞﾙｰﾌﾟ 唐樋 一郎		☎無記入
		1974年 (昭和49年) 12月	会員数 (39名, 男37名, 女2名)	機関紙 (無)
2234	33	オリエンテーリングクラブ吉備路 (OLC吉備路, OLCK)	代表	大岸 真爾
岡山県		〒701-01 岡山県倉敷市下庄681-3 吉岡 康子		☎0864-62-2378
		1985年 (昭和60年) 3月	会員数 (32名, 男26名, 女6名)	機関紙 (有, 吉備路, 年12回)
639	34	広島オリエンテーリングクラブ (広島OLC, HOLC)	会長	江坂 純義
広島県		〒732 広島市東区牛田新町3丁目7-14-101 三好 正夫		☎082-220-1657
		1973年 (昭和48年) 9月	会員数 (51名, 男38名, 女13名)	機関紙 (有, ｽﾀｲ, 年12回)
640	34	福山オリエンテーリングクラブ (福山OLCクラブ, FOLC)	無記入	佐藤 忠彦
広島県		〒720 福山市向陽町一丁目23-4 堀江 康博		☎0849-55-6409
		1974年 (昭和49年) 6月	会員数 (30名, 男25名, 女5名)	機関紙 (有, ﾈｯﾄ通信, 年12回)
2209	34	広島大学体育会オリエンテーリング部 (広島大学OLC, 無記入)	代表	大藪 哲哉
広島県		〒734 広島市南区旭一丁目9-17 ｽﾀｲ 旭304 尾川 正洋		☎082-254-9274
		1976年 (昭和51年)	会員数 (27名, 男23名, 女4名)	機関紙 (有, 赤い稲妻, 年10回)
2057	40	神戸須磨オリエンテーリングクラブ (神戸須磨OC, SUMA)	無記入	真鍋 卓也
福岡県		〒813 福岡市東区香椎駅東四丁目26-5-302 岩井 馨		☎092-683-4031
		1990年 (平成2年) 4月	会員数 (19名, 男13名, 女6名)	機関紙 (有, 田野横断, 年6回)
2280	41	虹の松原オリエンテーリングクラブ (虹の松原OLC, NOLC)	会長	溝江 信弥
佐賀県		〒849-51 佐賀県東松浦郡浜玉町大字浜崎1445-1 浜玉町役場内	三好 等	☎0955-56-6411
		1982年 (昭和57年) 9月	会員数 (15名, 男13名, 女2名)	機関紙 (無)

=次号に続く=

## コンターズ

甲南高校（兵庫県芦屋市）のOLクラブとして発足したが、生え抜き4人とその家族が現在の構成員となっていて、「甲南」の名はいまや自他ともに意識していない。クラブ独自の活動は、年に1回8月第1日曜日の練習会

（93年8月1日が第13回）と、年に6回の機関誌「こんたりんぐ」（93年3月号が第73号）ぐらいで、むしろ京都OLC・ふるはうす・大阪OLC・OLP兵庫などでの活躍で知られている。

## 追手門学院大学オリエンテーリング愛好会

昨年の6月に結成しました新しいクラブです。本学の体育会に所属し、大学の公認課外活動団体であります。少数ではありますが、上位クラスを目指して頑張ってい

ます。皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

## 高槻OL同好会

会員が少ない割には、20～60代まで幅広い層である。競技参加の能力のクラスもA、B、Cと各々あり、公認指導員も1級から3級まで資格者が存在し、バラエティ

に富んだ同好会であるが、家族的な、仲良し会の雰囲気の中にあつてハーフマラソンにも出る猛者もいるので要の高槻OL同好会です。

## オリエンテーリングクラブ吉備路

入会金・会費無料。  
大会に“OLC吉備路”所属で参加する。大会参加の感想

を書く。大会運営等を手伝う。そのどれ一つでもできれば立派に吉備路のクラブ員です。各クラブ員ができる範囲で

## 三菱自工水島オリエンテーリングクラブ

『ランサー・バジェロの三菱自動車』  
全国のオリエンティアへ。やる気ある三菱マン大募集！

高校・大学生で、入部希望者は事務局まで。  
エリートランナー求む！ 公認大会等への出張あり...

## 広島大学オリエンテーリングクラブ

平成6年1月9日（日）に、第14回広島大学大会を開催いたします。前日に山口大学大会も開催されます。

皆様のご参加を  
お待ちしております。

## 広島オリエンテーリングクラブ

今年9月、発足20周年を迎えるクラブの構成メンバーはベテランから初心者まで、職業も公務員あり自営業ありと様々だが、学校教員が13名もいるのが特色か。クラブの活動は個人の技術向上とともに、大きな目標の

一つにかかっている「地域へのOL普及」のため、県OL協会の行事に積極的に協力しているが、目下の悩みはジュニア会員がいないこと。今後は底辺拡大にも力を入れたいと考えている。

## 福山オリエンテーリングクラブ

備後の地からオリエンテーリングの火を消さないよう、頑張っています。周辺クラブとの交流により、地力を貯えて、より良い大会普及を続けていきたいと考えています。

実践内容、アイデア等ありましたらお聞かせ下さい。我がクラブの今年の目標（ターゲット）は、学校・公民館です。

=次号へ続く=

■「クラブ購読（登録）」をされていて、この“クラブ紹介”未掲載のクラブは、原稿（既掲載分と同字数ぐらい）を10月末日までにO-JAPANまでお寄せください。

エーシオン祭  
 ーシオン大会  
 26日



会津高田町・福島県オリエンテーリング協会

〈きりとり線〉

200円切手をはってください。

ポスト記号記入欄					
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12

OL100キロ・コンペ参加カード

(ペンあるいはボールペンで記入してください。)

コース名： \_\_\_\_\_

コース走破日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

所要時間： \_\_\_\_\_ 時間 \_\_\_\_\_ 分 \_\_\_\_\_ 秒

## 連絡協だより

## □東海地区連絡協報告

9月19日に定例の会合が持たれ、全国大会情報、東海地区の大会などの日程確認を行なった。その後、8月28・29日に行なった合同夏合宿について、自動計測記録システムのテスト結果の報告を行なった。また、学生がインカレ・セレクションの候補地のため参加できなかったものの、総勢46名もの参加を得て盛況のうちに終えることができた。報告書は現在まとめ中である。さらに会計報告もなされた。

11月28日の第7回東海クラブカップ

ブ・リレー大会の要項が主管の湖西OL同好会から発表があった。7回目にして初めて愛知県外で行なうことになった。加盟クラブ外からも多数の参加をお待ちしています。

来年以降の中日東海ブロックOL大会、東海クラブカップ・リレー、合同夏合宿について、日程・場所・担当クラブなどの話合いが行なわれ、今後煮詰めていくことで、今回は特に正式決定はなかった。

文責：小野盛光(三河OLC)

## 情報あれこれ

## □長野県OL協会の事務局変更

国立信州高遠少年自然の家で7月18日に行なわれた臨時総会において、事務局の変更が承認されました。新事務局は以下のとおりです。よろしくお願ひいたします。

現在、新事務局は県協会主催行事の事  
[新事務局]

〒399 長野県松本市石芝3-7-16 県職員松本寮 204号 元木 悟 気付  
電話：0263-28-5127 (21:00-23:00)

事務局(第14回長野県大会・3級指導員認定講習会)などを抱えているため、前事務局の龍堀氏との引継ぎができていませんが、早いうちに行ないたいと思っています。

元木 悟

=9月15日付、協会報No.3より=

## □「富山OLK5年間の歩み」発刊のご案内

私たち富山オリエンテリングクラブ(富山OLK)は、昭和62年9月に結成された地域クラブです。これまでに富山OLK大会を3回開催したほか、初心者のためのOL教室や地区調査講習会等の企画運営、県OL協会とともに県内で開催されるOL大会の運営をするなど、幅広く様々な活動を展開して参りました。

この度、富山OLKでは、結成されて5年が過ぎたのを契機として、5年間の活動について1冊の本にまとめ、「富山OLK5年間の歩み」を発刊することとなりました。本書は、3回にわたる富山[富山OLK5年間の歩み]

- ・発行日 5年10月1日 ・企画、部数 B5サイズ、80ページ、150部発行予定
- ・価格 500円(+送料300円)
- ・申込先 〒939-27富山県婦負郡婦中町宮ヶ島141-5 山口 敏夫 ☎0764-66-3288

OLK大会の内容を中心に、当時の資料や会報(TOLK報)を基にして、実際の活動や感想を詳細にそしてコンパクトにまとめています。また、本書の発行にあたり、クラブ以外の方々に原稿を書いていただき、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

なお、一般の方にも下記のとおり販売しますので、ご希望の方はご連絡くださいますようお願いいたします。また、今秋の朝日大会(10/31)、富山大学大会(11/6)、東日本大会(11/7)の会場でも販売する予定です。

山口 敏夫

## 編集部より

◆今月の表紙と地図、そして目次のページの写真等、去る9月26日に福島県津高田市で行なわれた「福島県レクリエーション大会」でのものです。表紙は、県指定の天然記念物「蓋沼の浮島」で、横長に撮れば「浮島」の様子が良く出るのですが、いつも「表紙」の写真しか頭になく、私はほとんど縦にカメラを構えます。この説明看板にも書かれていますが、「沼の周辺にはクリ・コナラ・ミズナラなどからなる落葉広葉樹林が繁茂し」とあり、これからの季節はなかなかの景観と思われます。本誌93/8のPCりば〜とで大高竜亮さん(この方は24歳という、若い方なのです)の「蓋沼森林公園」をご参照ください。◆この大会にご案内したダリル・スミスさんは、1982年の環太平洋選手権の時に初来日、84年から85年にかけて1年間ほど宇都宮で英語の先生をしながら「日本」を体験しました。その時、栃木県内のPCを100キロほど踏破しています。奥さんも広島大学留学の経験があり、現在二人のお子さんをお持ちです。タスマニアでのAPOC(88年)やVWC(92年)の運営面で活躍、特にAPOCでは大変なお世話になった人です。タスマニアに行かれる方は声をかけてください。そう、中学生の日本語のクラスに一人OLをやる子がいるそうで、近々「日本語」の作文を送ってくれるそうです。◆さて、中学生といえは奈良の城山先生から「大学や世界選手権などの記事が多く、中学生のクラブをあずかる私にとっては、読む記事が少なく、子どもたちも読めるような内容にはなっていません。少しずつ、こつこつとやっているオリエンティアから離れていっているような気がします」というお叱りのお手紙をいただきました。全国の中学の先生方に、編集部からもお願いします。課外活動などの様子を投稿していただければ幸いです。◆「お前が取材しろ」と言われると困るのですが、一か月の土・日・祝日10日間ぐらいの内、5〜6日はワープロに向かい、2日ほどは綴込み・製本・発送(一人で)にかかっていますので、ご勘弁を。 流入

O-JAPAN 発行人/田口 昭子 : 購読料 年間4月〜3月 ¥3,000  
〒233 横浜市港南区日野南7-9-5 : (高校生以下) ¥1,800  
TEL. 045-891-7004 FAX. 045-891-2500 : '93.10月〜'94.3月 ¥1,500  
分室=Annex 0287-77-1977 : 1部あたり頒布価格 ¥250  
郵便振替口座/横浜7-46870 (加入者名) O-JAPAN 編集部

: 編集責任者/田口 肇  
: Chief Editor: Hajime Taguchi  
: Editorial Address:  
: 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku  
: Yokohama, 233 Japan